

# 西陵中・幌別西小 小中連携だより

発行：西陵中学校・幌別西小学校 小中一貫教育推進協議会 平成29年12月7日【第3号】

## 保護者アンケート・小中共通項目に関する結果のお知らせ

今年度から、両校で実施している「保護者アンケート」の一部を小中で同じ質問にしています。大変遅くなりましたが、1学期末に実施しました第1回目のアンケートから、この小中共通項目についての結果をまとめましたので、ここに報告いたします。

数字(%)は「あてはまる」「だいたいあてはまる」を合計したものです。

1 学校は、学校だより、ホームページ、学級通信等を通して、教育方針や教育活動をわかりやすく説明している。 【小：95% 中：94%】

2 学校は、子どもの相談や連絡、保護者の願いや要望に対して、誠意をもって対応している。 【小：92% 中：85%】

「開かれた学校」として高い評価をいただきました。私たちは、義務教育9年間で子どもたちを育み、15歳で中学校を卒業していくイメージを地域の方々と共有していく必要があると考えています。そのため、これからは地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」を目指していきます。

3 学校は、(習熟度別学習や複数教員の指導など)子どもたちが「わかった」「できた」「使えた」と実感できる授業をしている。 【小：81% 中：76%】

私たちは、きめの細かい学習指導を目指し、小学校では、特に算数科において3年生以上の習熟度別少数指導や複数教員による学習指導を行い、子どもの着実な学習内容の習得に努めています。中学校では、全学年の数学科・英語科において習熟度別学習や複数教員による学習指導を実施しています。

私たちの目標は、義務教育9年間で学んだことを実生活に生かし、自分の能力を発揮して、自分の人生や社会をよりよくしていこうという力を身に付けさせることです。「わかった」と実感することはもちろん、学んだことを生かして、今までできなかったことができるようになる、身に付けた技術を使えるようになる。そんな授業を目指します。また、新しい時代に必要となる資質・能力を育成していくことも今後の課題です。



4 学校は、家庭と共に、子どもが毎日家庭で学習する習慣づくりに取り組んでいる。 【小：89% 中：83%】



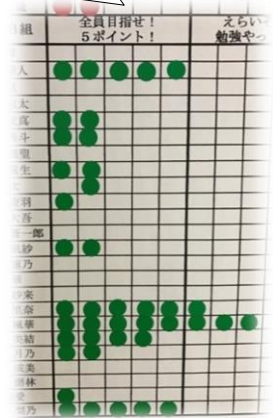
小学校では、中学校と時期をあわせた家庭学習強化週間で家庭学習を奨励し、取り組んだ家庭学習ノートを紹介するノート展を行ったり、ノート提出皆勤児童へ賞状を出したりしています。また、2階ホールに家庭学習用のプリントコーナーを用意し、取り組んだ子どもにスタンプを押してやる気の喚起に努めています。

中学校では、担任が家庭学習ノートの提出を呼びかけ、週末に発行する学級通信に1週間の提出状況を紹介しています。また、学習専門委員会の取組として、丁寧に整理、工夫されているノートを表彰するBNC(ビューティフル・ノート・コンテスト)、教科担任がテスト対策プリントを用意したり、全校生徒の家庭学習提出状況を生徒玄関ホールに掲示したりする家庭学習強化週間の設定など、生徒の主体的、意欲的な取組となる工夫をしています。

(ウラ面もあります)

この家庭学習強化週間は、「中学校に通う兄や姉が勉強しているから、私も勉強する」という意識が高まってほしいという発想から、中学校の定期テスト前、小学校と同時期に実施しています。

家庭学習の提出状況を玄関ホールに掲示(中)



- 5 学校は、よりよい人間関係づくりや規則を守る態度など、子どもの社会性を育てている。 【小：86% 中：78%】
- 6 学校は、いじめに関する情報を提示し、「いじめは絶対に許されない」という意識を子どもたちに育てている。 【小：81% 中：76%】



全校道徳・いじめ撲滅集会(中)

いじめを苦にした自殺が報道されています。大切なことは、事実を隠さずにはっきりとさせる、子どものSOSを敏感に察知すること。私たち大人はいじめに対して毅然とした態度で対応し、日常的に子どもたちをよく観察していなければなりません。

また、「いじめは絶対に許されない」という意識を教師や親が一方的に押しつけるだけでは、いじめはなくなりません。

小学校では、いじめの問題に対して「しない・させない・許さない」を指導の原則とし、日常的な子どもの観察を大切にしながらいじめ調査を踏まえた教育相談の実施や、より良い人間関係を築くための児童会が主体となったあいさつ運動などに継続して取り組んでいます。

中学校では、7月に各学級の道徳授業、いじめに関する全校集会を開催しました。児童生徒自らが考え、自分のこととしていじめ問題を捉えることが必要です。

- 7 私(我が家)は、子どもたちに挨拶や返事、言葉遣い(小：靴をそろえる)などが身につくように指導している。 【小：91% 中：85%】
- 8 子どもは、元気に挨拶できる。 【小：83% 中：78%】



朝の挨拶運動(小)

家庭が挨拶や返事、言葉遣い(小：靴をそろえる)を指導していると回答したご家庭が、小中ともに高い割合となっています。しかし、学校がその指導をしていると回答した割合は、中学校で67%でした(中学校のみの質問項目です)。これは改善すべき数値です。中学校では、記述の回答などで「先生と生徒の距離が近く、何でも話しやすい雰囲気がある」という評価をいただいておりますが、先生と生徒は友達同士ではありません。さらに、小学校でできていたことが中学校でできなくなっているのであれば、とても残念なことです。

学力向上が叫ばれる昨今ですが、義務教育を終え、近い将来、一人前の社会人となるために必要なのは、学力以前に「挨拶や返事、言葉遣い」です。このことを強く認識しながら指導をしていきます。

- 9 子どもは、学校生活を楽しみにしている。 【小：93% 中：81%】

平成29年度、幌別西小学校は「子どもの笑顔を創り出す学校づくり」、西陵中学校は「安心と信頼のある学校づくり」を目指して教育活動を行ってきました。子どもが笑顔で安心して生活できる学校であれば、子どもは毎日学校へ行くことを楽しみにするはずで。

学校へ行けば自分の役割がある、活躍の場がある、どこかに居場所がある。自己有用感や安心感があれば、学校に足を運びたくなります。今後も、学校生活が楽しみという生徒がますます増えるよう、小中が連携して、より良い学校づくりを目指していきます。

今年度2回目の保護者アンケートを実施します。小学校は12月5日(火)に配布しました。中学校は12月11日(月)に配布予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。